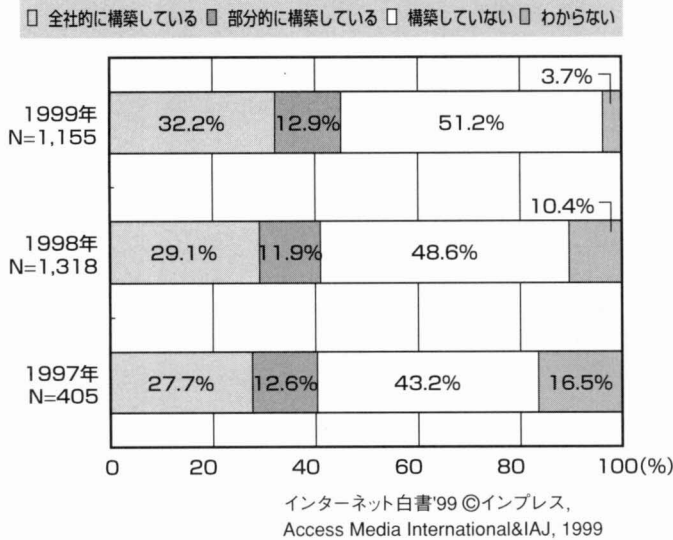


第3章 企業

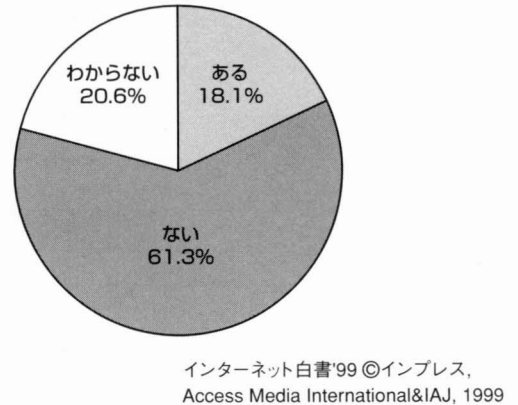
犯罪・セキュリティ

ファイヤーウォール構築は増加傾向、3割を超える

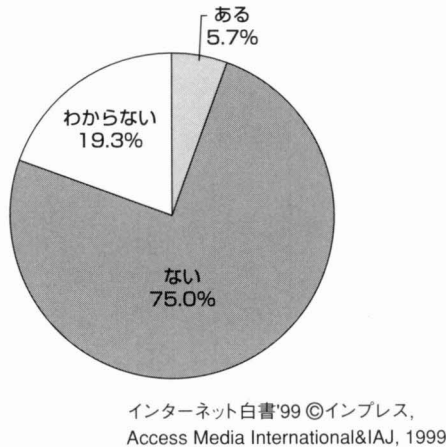
資料1-3-34 ファイヤーウォール構築の有無 (1997年-1999年)



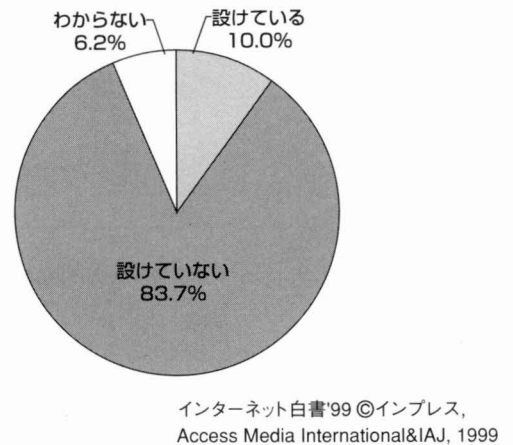
資料1-3-35 ファイヤーウォール以外のセキュリティ対策有無 N=1,155



資料1-3-36 クラック、ハッキングされた経験の有無 N=1,155



資料1-3-37 社内クラッカー、ハッカーに対する規制事項の有無 N=1,155



解説

企業において、犯罪やセキュリティに関する対応はインターネット利用者の拡大に伴い難しさを増すことになると予想される。

ファイヤーウォールを構築している企業は徐々にではあるが、年々増加しており、1999年にはインターネット利用企業の約3割を超えた。ファイヤーウォールは先にみたイントラネット構築と深い相関があり、当然ながらイントラネット構築企業におけるファイヤーウォール構築比率が高くなっている。今後イントラネットやエクストラネットが増加するに伴いファイヤーウォールも比例して増加することが予測できる。

これに対するクラック、ハッキングの経験で

は全体の5.7%の企業が「ある」と回答しており、従業員規模別でみると、1,000人以上の大規模企業で比較的クラック、ハッキング経験が高い。規模が大きくなればなるほど、外部から進入される機会は増え、セキュリティは難しさを増すことになる。

一方、先にも述べたように、企業が従業員に対するインターネット利用促進を促すことは、他方で社内クラッカー、ハッカーに対する対応策を考えねばならないという問題を投げかけることになる。現状では社内のクラッカー、ハッカーに対する規制事項を設けている企業は全体の10.0%にすぎず、対策が進んでいる

とはいいい難い。

(矢野さよみ
アクセスメディア インターナショナル株式会社)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp